

<フィリピン・リサーチ・レポート>

情報提供用資料

2025 年 7 月 24 日

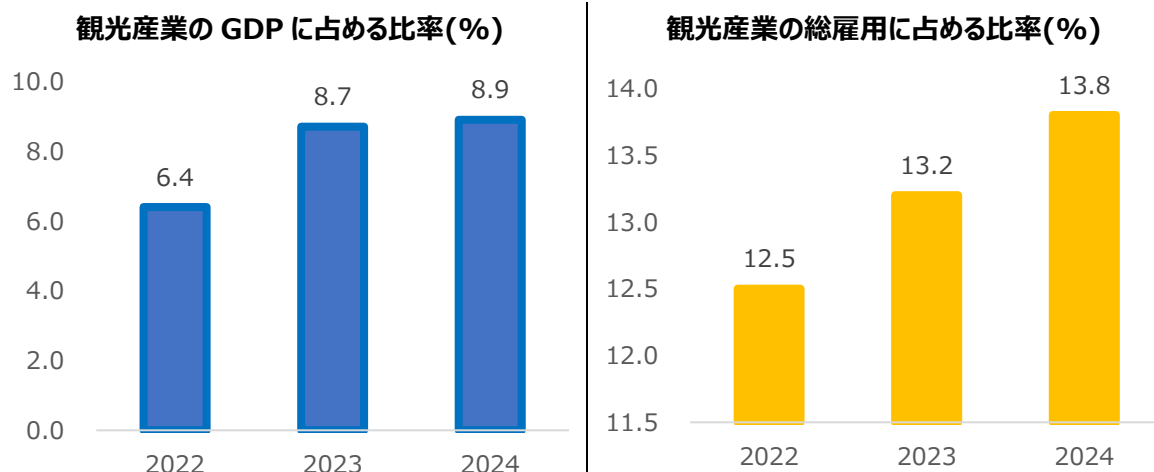
観光産業はフィリピン GDP に約 9% 貢献

フィリピンにおける観光産業の経済規模を観光直接付加価値(TDGVA)という指標で捉えると、2024 年の名目 TDGVA は 2.35 兆ペソ(約 6.36 兆円)となり、2023 年の 2.12 兆ペソより 11.2%増加した。これはフィリピンの 2024 年国内総生産(GDP)全体の約 8.9%を占め、前年の 8.7%から増加した(名目、実質ともに同率)。アジア内でも成長率が高い国であるフィリピンの経済に観光産業が貢献していることが伺える。

フィリピン統計庁(PSA)では、旅行者による宿泊、飲食、輸送サービス、旅行代理店などの予約サービス、娯楽・レクリエーション、観光特有商品(ショッピング)などを旅行者による支出として集計開示している。フィリピン居住者による国内観光支出は、国内旅行や国際旅行の一部として国内でなされる支出を含み、2024 年には 3.16 兆ペソ(約 8.54 兆円)へと前年比 16.4%増加した。外国人旅行者による 2024 年インバウンド観光支出は 0.70 兆ペソ(約 1.89 兆円)であり、同 0.4%増であった。2023 年に新型コロナ禍前の 2019 年(0.60 兆ペソ)を超える水準にまで回復した後、勢いを保っているベトナムとは異なりインバウンド支出が鈍化した。居住者の国際旅行に伴うアウトバウンド観光支出は 2024 年に約 0.35 兆ペソへと同 37.5%増という高い伸びを示した。これは GDP 計算上では輸入に含まれるマイナス項目ではあるが、国内経済の支えになっている海外出稼ぎ労働者(OFW)の活発な活動を含んでいることが背景にあると考えられる。

観光産業の雇用者数は 2024 年には推定 675 万人で、2023 年の 637 万人から 6.1%増加したと推定されている。観光産業の雇用がフィリピン国内の総雇用に占める割合は 2024 年に 13.8%だった。

オイコノミヤ・アドバイザー & リサーチ社のエコノミスト、レイニエル・マット・M・エレセ氏は、「2024 年の平均インフレ率は 3.2%で、2023 年の 6%から大きく低下し、経済状況の改善が観光客増加の一因となっている可能性がある。」と述べ、インフレの緩和が昨年の観光支出増加の重要な要因であったと指摘した。



出所：フィリピン統計庁(PSA)

以上

免責事項

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。